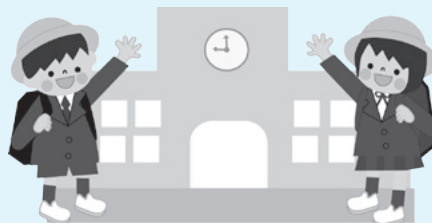


子どもの求める学校

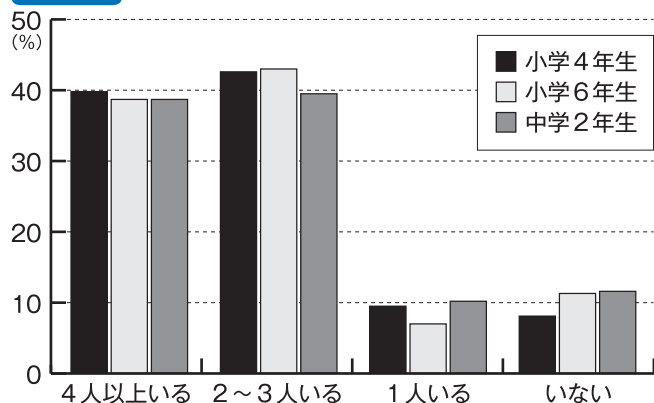
学校・家庭・地域でもう一度、見直してみませんか！



田川市学校教育実態調査

田川市立教育研究所では、毎年度、学校教育の推進のために、児童・生徒を対象に調査研究を実施しています。本年度は、田川市内の全小中学校17校中の小学4年生(434人)・小学6年生(467人)・中学2年生(408人)の児童・生徒合計1,309人とその保護者・教師を対象に、今回は、学習や学校生活について大切にしていることのアンケート調査を行いました。その調査結果のうち、一部を紹介します。子どもの求める学校について、学校・家庭・地域でもう一度見直す機会にいただければ幸いです。

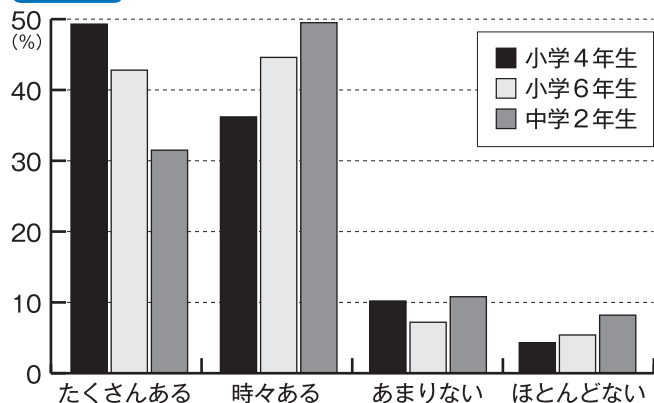
Q 困っているとき、相談にのってくれる友だちは何人くらいいますか。



市全体では、困っているとき、相談にのってくれる友だちは「2~3人いる」の41.9%が一番多く、「4人以上いる」「2~3人いる」を合わせた割合を学年で見ると、小学4年生では82.6%、小学6年生では81.7%、中学2年生では78.2%となり、全体で7割以上の子どもが、困っているとき相談にのってくれる友達が複数いることがわかりました。

一方、「いない」と回答した子どもは、小学4年生では8.1%、小学6年生では11.3%、中学2年生では11.6%となり、学年が上がると相談相手が少なくなることが考えられます。日頃から、学校や家庭を通しての支援や気配りが必要だと思われます。

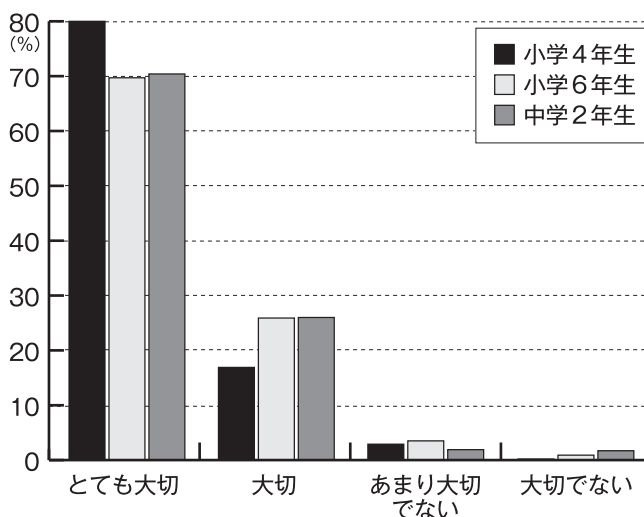
Q 先生から「ほめてもらった」ことはどのくらいありますか。



市全体では、先生からほめてもらった経験は「時々ある」の43.2%が一番多く、「たくさんある」「時々ある」を合わせた割合を学年で見ると、小学4年生では85.5%、小学6年生では87.4%、中学2年生では81%となり、全体で8割以上の子どもが、先生にほめてもらった経験があることがわかりました。教師が教育活動の中で、声をかけたり、ほめたり、励ましたりしていることが子どもに伝わり、このような結果になっていると思われます。

一方、「ほとんどない」と回答した子どもはどの学年にも数%いるので、日頃からほめられたり、相談したりしやすい関係があれば、子どもにとっても大きな力となると考えます。

Q 学校で「あいさつや返事をする」ことは、大切だと思いますか。



市全体では、「あいさつや返事をする」ことが大切だと思っている割合は、「とても大切」の73.4%が一番多く、「とても大切」と回答した割合を学年で見ると、小学4年生では80%、小学6年生では69.7%、中学2年生では70.4%で、学年が上がると減少傾向であることがわかりました。

一方、「大切でない」と回答した子どもの割合は、小学4年生では0.2%、小学6年生では0.9%、中学2年生では1.7%と、大変低いことがわかりました。これは、学校と家庭が連携して取り組んでいる「新」家庭教育宣言が、子どもの基本的な生活習慣に反映されている効果だと思われます。